

当館における輸血検査部門の時間外教育体制の構築とその効果

◎吉田 剛士¹⁾、萩尾 修平¹⁾、西田 千恵¹⁾、橋本 茜¹⁾、山口 健太¹⁾、松下 義照¹⁾
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館¹⁾

【目的】当館は2015年12月にISO15189認定を取得しており、輸血検査室では24時間365日体制で輸血へ対応している。教育に関する管理については、ISOの要求事項に定められており、質の高い医療を提供するための要員の力量を維持管理し、継続的にスキルを向上させることなどが要求されている。時間外においては、輸血専任以外の技師も輸血業務に携わっており、不慣れな技師にとって精神的負担が大きいため、教育トレーニングを継続して行う必要がある。そこで今回、当館におけるISO15189認定取得後の教育体制の変化とその効果について報告する。

【方法】①新人教育：(1)時間外教育計画表の作成：検査部技術管理委員会が教育実施期間を決定し、教育状況を管理する。対象者は教育計画に基づき、教育トレーニングを受講する。(2)従来の検査技術指導と製剤管理の教育に加え、臨床とのコミュニケーションの取り方なども教育内容に追加した。(3)確認テストの実施：緊急輸血を想定したシュミレーションを実施し最終評価を実

施。②要員の力量管理：(1)時間外輸血マニュアルの改訂：時間外業務担当者にアンケート実施。それらの意見を集約し改訂した。(2)目合わせの実施：凝集反応の分類と判定の統一を目的に試験管法における凝集反応の目合わせを実施した。

【結果】教育の進捗状況を管理することで、あらかじめ計画した教育期間内に教育を修了できるようになった。また、教育内容の見直しを継続して行うことで、時間外担当者の力量向上に一定の効果が得られた。実際に時間外における輸血専任技師に対する電話問い合わせや呼び出しの件数は減少傾向であった。

【結語】ISO15189認定取得後は、教育進捗状況の管理が明確になり実践的な教育が実施できている。今後も、より良い教育体制を整備していくことで、常時安定した質の高い輸血対応ができるよう貢献したい。

連絡先：0952-24-2171（内線：1679）